

学生獲得を巡るこれまでの指摘について

○内閣府独立行政法人評価委員会分科会の指摘（第 14 回分科会 平成 21 年 8 月 19 日）

- ・世界最高水準の大学院大学の実現を目指す機構の使命に照らすと、大学院大学のモデルの検討に資する調査が、十分に戦略性を持って行われたのか疑問が残った。質の高い学生の獲得に関し国際的に厳しい競争が展開される状況の中で、沖縄において、世界最高水準の大学院大学を設置するには、認可申請に必要な事項の検討に留まらず、国内外の特性や状況に配意し、それぞれの優れた学生を獲得する方策を含め、現時点から、より緻密な戦略を構築していくことが不可欠である。適切なベンチマークを設定した上で、開学に向けた取組を戦略的・計画的に行っていくことが期待される。

（総合評価表（平成 20 年度業務実績）から抜粋）

○総合科学技術会議の指摘（第 87 回 平成 21 年 12 月 9 日）

- ・沖縄科学技術大学院大学が独立の大学院大学として「世界トップクラスの拠点を形成し、世界の科学技術をリードする」ものとなりうるかどうかである。これは特に学生について言える。現在の計画では、PI 50 名、PI 一人あたり、学生 2 - 5 名として、事業完成のあかつきには、合計 100 - 250 人の大学院学生を擁する大学院大学を構想しているが、優秀な学生の争奪戦がグローバルにこれからますます激化するだろうこの時代に、こうした構想にどれほど実現可能性があるか、大いに懸念せざるをえない。

（平成 22 年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等について 改善・見直し指摘内容から抜粋）